

## 2022 年度みんなで話そう学童保育ひろばin尾張旭レポート

【クラブ】（あそびばクラブ）

【名 前】（ヒライワヨウスケ）

- “いっしょに子育て学童保育”～ 子どもを真ん中に～
- 学童保育を保護者の方に感じてほしい
- 子どもから学童保育の話聞く⇒指導員から子どもの姿（ようす）を聞く⇒お家でのようすを指導員にお話しをする（保育に必要なこともたくさんある）
- 子どもをただあずける場所ではない
- 子どもはどんどん成長していきます。その成長を指導員だけでなく、保護者の方にも感じてもらい、一緒にその姿を見ながら、喜びもときには辛いことも共有しながら、協働で子育てをしていく場所＝学童保育
- お互いが一方通行にならないようにするにはどうしたらいいのでしょうか？

今回の学童保育ひろばのテーマみたいなものやまとめ的なものを列挙してみました。どれも大事なことです。でもちょっと漠としているので、似たような感じの組織として、公益社団法人日本 PTA 全国協議会のパンフレットから、すこしばかり引用してみます。

### ・なぜ必要なの？

あなたは大切なお子さんを誰の手も借りず、安全な登下校をさせ、豊かな教育環境を育み、健全な成長をさせることができますでしょうか。

子育てには様々な悩みがあり、保護者だけでは解決できないことがいろいろありますよね。

子供たちの健全育成のため、子育ての当事者同士が連帯し、先生方とも子供たちを取り巻く状況・情報の共有をしながら学び合える場が必要となり誕生した P T A。その活動は一人の百歩より百人の一步でできることを皆で分担してすれば各負担も軽減されます。

また、連絡や活動をするにも何がしかの費用がかかりますが、会費という形で費用分担することで活動の進展ができます。子供たちの健やかな成長を願って、多くの保護者と先生方が連携・協働し、互いに学び合いながら P T A の活動をする姿は、子供たちにとって大きな安心感を与えると共に、健やかな成長に大きく寄与することでしょう。

### ・子供の成長が見られる 友だちができる 学校がよくわかる

まず、P T A の行事に参加することで学校に行く機会が増え、学校のことがわかりだします。先生の名前や学校の環境を知ること、子供の学校での様子が子供の話の中だけでなく、実際によく分かります。

また、同じ年代の子供をもつ保護者と話す機会が増え、子育ての悩みや喜びを話すこ

ともできます。同じ学校や地域に、子育ての友達が増えることが、子育てにとっても心強い  
です。

PTAの参加は、先生方のお手伝いにもつながります。子供にとっても、多くの大人た  
ちが近くで見守って応援しているという環境は、とても安心することです。

とあります。保護者が学校や学童保育にかかわる必要性が、より具体的になりました。子  
どもたちの成長をより良くするためには、その子どもにかかわる大人たちの連携が欠かせな  
いということだと思えます。もう少しシンプルなのが、世田谷区立瀬田小学校の PTA 会  
則にありました。

## 第2条（目的）

この会は、保護者と教師とが協力して、家庭及び社会における児童の幸福な成長をはか  
ることを目的とし、そのために次の活動を行う。

1. 児童教育をよりよいものとするために保護者と教師が協力する。
2. 学校と家庭との協力によって、児童の生活環境及び教育環境をよくする。
3. よい保護者、よい教師になるために、研修等により教養を高め、また会員相互の親  
睦をはかる。

とても大切なことが書かれており、社会のなかで、地域のなかで、みんなで子どもたちを  
育てていくという、誰もが共感できる内容になっていると思います。家庭だけではできない  
ことがあり、学校だけではできないことがあり、学童保育だけではできないことがあるとい  
うのは、厳然たる事実であるはずで、そこにかかわる大人たちは、協力し合いながら子育て  
（教育）していくということは、みんな「そうだよな」となるはずなのに、現実の課題とし  
て、PTA の解散がニュースになったり、尾張旭もふくめ、学童保育の業界でも、保護者の  
かわりが希薄になっている（保護者会が学童保育を運営するということは別の問題とし  
て）ということが課題になっています。

果たして、個々の保護者は、学校や学童保育にかかわることについて、関心がなくなっ  
ているのでしょうか。僕は決してそうは思いません。わが子について関心のない保護者はい  
ないでしょう（あえて言い切ります）。わが子に関心があるということは、わが子が学ぶ学  
校にもわが子が生活する学童保育にも、関心があるに決まっています（あえて言い切ります）。

そのように考えると、保護者は、学校や学童保育に関心があって、わが子が学校や学童保  
育でどのように学んだり生活したりしているのかを知りたいと思っているけれども（なんら  
かのかたちでかわりたいと思っているけれども）、なんらかの事情（おもに仕事）で積極  
的になれないということになります。現に、授業参観や学芸会や運動会などの「たのしくハ  
レ」な非日常の行事やイベントには、みんな都合をつけて積極的に参加します。

ということは、「たのしくないケ」の行事やイベント（わかってはいるけれども、できれ  
ばやりたくないという日常的で負担感がともなうもの）には積極的になれないと考えること  
ができます（もちろん回数の問題もあります）。ここに、学童保育や学校に保護者がかかわ

るということを考えるためのカギがあるような気がします。

- ① 保護者は学童保育になんらかのかたちでかかわりたいと思っている。
- ② けれども、日常の仕事と子育ての両立で、いささかお疲れ気味であるから、なんらかのかたちでかかわりたいと思っても、なかなか積極的になれない。
- ③ なかなか積極的になれないけれども、ビックイベントであったり、わが子が直接的にかかわることであるならば、その重い腰を動かすことは比較的容易である。
- ④ ということは、仕掛ける側（学童保育の運営者や指導員または学校の先生たち）が、重い腰を動かしやすい環境をつくり出すことで、そのような課題の解決につながる。

というように考えることができるのではないのでしょうか。

学童保育のバイブル？『放課後児童クラブ運営指針解説書』には、以下のような記載があります。

- 放課後児童クラブの活動を保護者に伝えて理解を得られるようにするとともに、保護者が活動や行事に参加する機会を設けるなどして、保護者との協力関係をつくる。
- 保護者組織と連携して、保護者が互いに協力して子育ての責任を果たせるように支援する。

この2つの項目の主語は、言うまでもなく、学童保育（放課後児童クラブ）であり、もう少し具体的に言うならば、その学童保育を運営する事業者であり、その学童保育で働く指導員を指します。まさに「仕掛ける側」です。保護者会は保護者の自主的な組織だから（PTAも同じ）と仕掛ける側が保護者（利用者とも言える）に投げてしまえば、残念ながら、その組織は途端に機能不全になり、負担感そのものになってしまいます。

そうならないように、そこで働く者や経験値がある者が「仕掛ける側」として、保護者が参加しやすくかかわりやすい環境をつくり出すことが肝心になってきます。でも、そうではないから、全国のいたるところで、PTA や保護者会の機能不全が起きていると思います。

では、具体的にどんな方法があるのでしょうか。保護者が学童保育や学校にかかわることは大切なことであるということは、共通認識として双方で共有されているのだから、その上で、現実的にどういうことができるのだろうという話し合いが成り立つと思います。

すでに、どんな学童保育も「どんな保護者会にしようかな」というスタートラインに立っていると思います。あとは、誰が第一声を上げるかだと思います。